

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6261373号
(P6261373)

(45) 発行日 平成30年1月17日(2018.1.17)

(24) 登録日 平成29年12月22日(2017.12.22)

(51) Int.Cl.

F I

B 4 1 J 29/38 (2006.01)

B 4 1 J 29/38 Z

B 4 1 J 29/00 (2006.01)

B 4 1 J 29/00 Z

B 4 1 J 29/42 (2006.01)

B 4 1 J 29/42 F

H O 4 N 1/00 (2006.01)

H O 4 N 1/00 C

G O 6 F 21/31 (2013.01)

G O 6 F 21/31

請求項の数 7 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2014-30786 (P2014-30786)
 (22) 出願日 平成26年2月20日(2014.2.20)
 (65) 公開番号 特開2015-155159 (P2015-155159A)
 (43) 公開日 平成27年8月27日(2015.8.27)
 審査請求日 平成29年2月3日(2017.2.3)

(73) 特許権者 000001007
 キヤノン株式会社
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 (74) 代理人 100076428
 弁理士 大塚 康德
 (74) 代理人 100112508
 弁理士 高柳 司郎
 (74) 代理人 100115071
 弁理士 大塚 康弘
 (74) 代理人 100116894
 弁理士 木村 秀二
 (74) 代理人 100130409
 弁理士 下山 治
 (74) 代理人 100134175
 弁理士 永川 行光

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 画像処理装置、画像処理方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ジョブの種別毎に、ログイン中のユーザ以外のユーザの該種別のジョブに関する情報の表示を制限するか否か、を設定する設定手段と、

指定された種別について前記設定手段が設定した設定内容に基づいて、該指定された種別のジョブに関する情報の表示を制御する制御手段と

を備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】

前記制御手段は、

前記指定された種別について前記設定手段が設定した設定内容が、ジョブに関する情報の表示を制限する設定である場合には、ログイン中のユーザ以外のユーザの該指定された種別の処理中のジョブ及び処理待ちのジョブに関する情報はマスクして表示する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 3】

更に、

前記マスクされている前記処理中のジョブ及び処理待ちのジョブに対する操作を禁止させる手段を備えることを特徴とする請求項 2 に記載の画像処理装置。

【請求項 4】

前記操作は、ジョブの実行を中止する操作であることを特徴とする請求項 3 に記載の画像処理装置。

【請求項 5】

前記制御手段は、

前記指定された種別について前記設定手段が設定した設定内容が、ジョブに関する情報の表示を制限する設定である場合には、ログイン中のユーザ以外のユーザの該指定された種別の処理済みジョブに関する情報は表示しない

ことを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の画像処理装置。

【請求項 6】

画像処理装置が行う画像処理方法であって、

前記画像処理装置の設定手段が、ジョブの種別毎に、ログイン中のユーザ以外のユーザの該種別のジョブに関する情報の表示を制限するか否か、を設定する設定工程と、

前記画像処理装置の制御手段が、指定された種別について前記設定工程で設定した設定内容に基づいて、該指定された種別のジョブに関する情報の表示を制御する制御工程とを備えることを特徴とする画像処理方法。

【請求項 7】

コンピュータを、請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載の画像処理装置の各手段として機能させるためのコンピュータプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ジョブ管理技術に関するものである。

【背景技術】

【0002】

画像処理装置は複数のユーザで共有して使用されることが多い。実行したジョブの状況や履歴を表示することが可能な画像処理装置では、セキュリティ及びプライバシーの観点より、認証機能と組み合わせて、ログインしたユーザ以外のジョブをマスク表示したり、中止や削除といった操作を禁止するものがある（特許文献 1）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2005 - 339508 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら従来技術では、ファクス送信されたジョブの履歴から、結果一覧を出力してファイリングするような作業をさせたいという要望があった場合、ログインしたユーザ以外のジョブをマスク表示してしまうと、ユーザが望む結果一覧が出力されない。そのため、マスク設定を解除するしかなく、セキュリティの観点から問題があった。

【0005】

また一方で、ログインしたユーザ以外のジョブがマスク表示され、中止や削除といった操作ができないにも関わらず、自分ジョブと他人のジョブが混在して表示されるため、自分のジョブがすぐに探せない、といった問題があった。

【0006】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、ジョブの種別毎に非ログインユーザのジョブに関する情報の表示制御を行うための技術を提供する。また、本発明は更に、ジョブの種別毎に非ログインユーザのジョブに対する操作制御を行うための技術をも提供する。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の一様態は、ジョブの種別毎に、ログイン中のユーザ以外のユーザの該種別のジョブに関する情報の表示を制限するか否か、を設定する設定手段と、指定された種別につ

10

20

30

40

50

いて前記設定手段が設定した設定内容に基づいて、該指定された種別のジョブに関する情報の表示を制御する制御手段とを備えることを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

本発明の構成により、ジョブの種別毎に非ログインユーザのジョブに関する情報の表示制御を行うことができる。また、ジョブの種別毎に非ログインユーザのジョブに対する操作制御を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】画像処理装置100のハードウェア構成例を示すブロック図。

10

【図2】GUIの表示例を示す図。

【図3】GUIの表示例を示す図。

【図4】画像処理装置100が行う処理のフローチャート。

【図5】リストの一例を示す図。

【図6】画像処理装置100が行う処理のフローチャート。

【図7】GUIの表示例を示す図。

【図8】画像処理装置100の機能構成例を示すブロック図。

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、添付図面を参照し、本発明の好適な実施形態について説明する。なお、以下説明する実施形態は、本発明を具体的に実施した場合の一例を示すもので、特許請求の範囲に記載した構成の具体的な実施例の1つである。

20

【0011】

[第1の実施形態]

先ず、本実施形態に係る画像処理装置100のハードウェア構成例について、図1のブロック図を用いて説明する。なお、図1に示した構成はあくまでも一例であり、このような構成に限ることを意図したものではない。すなわち、以下に説明する各処理を実行可能な構成であれば、如何なる構成を採用しても構わない。

【0012】

CPU101は、メモリ102に格納されているコンピュータプログラムやデータを用いて処理を実行することで、本装置全体の動作制御を行うと共に、画像処理装置100が行うものとして後述する各処理を実行する。

30

【0013】

メモリ102は、補助記憶装置103からロードされたコンピュータプログラムやデータを一時的に記憶するためのエリアを有する。また、メモリ102は、スキャナ装置104が読み取った画像のデータや、FAX送受信装置105が受信したファックスデータ、通信インターフェース108を介して外部から受信したデータ、を一時的に記憶するためのエリアを有する。また、メモリ102は、CPU101が各種の処理を実行する際に用いるワークエリアも有する。すなわちメモリ102は、各種のエリアを適宜提供することができる。

40

【0014】

補助記憶装置103は、ハードディスクドライブ装置に代表される大容量情報記憶装置である。この補助記憶装置103には、OS（オペレーティングシステム）や、画像処理装置100が行うものとして後述する各処理をCPU101に実行させるためのコンピュータプログラムやデータが保存されている。このコンピュータプログラムには、図2, 3, 7に示すようなGUI（グラフィカルユーザインターフェース）のコンピュータプログラムが含まれている。

【0015】

補助記憶装置103に保存されているコンピュータプログラムやデータは、CPU101による制御に従って適宜メモリ102にロードされ、CPU101による処理となる。

50

【 0 0 1 6 】

スキャナ装置 1 0 4 は、周知の如く、紙などの記録媒体上に記録されている情報を画像として読み取り、該読み取った画像を出力する装置である。F A X 送受信装置 1 0 5 は、本装置内のデータをファクスデータとして送信したり、外部の機器から送信されたファクスデータを受信する装置である。

【 0 0 1 7 】

印刷装置 1 0 6 は、周知の如く、印刷データに基づいて、紙などの記録媒体上に画像や文字を印刷する装置である。操作パネル 1 0 7 は、タッチパネル式の画面（タッチパネル画面）と、ハードキーと、を有するものである。

【 0 0 1 8 】

通信インターフェース 1 0 8 は、ネットワークを介して外部機器とのデータの送信を行うものであり、例えば、E-mail の送受信やSMB送受信、機器に必要な情報の送受信を行う。上記の何れも内部バス 1 0 9 に接続されている。

【 0 0 1 9 】

このような画像処理装置 1 0 0 の機能構成例について、図 8 のブロック図を用いて説明する。通信管理部 1 1 0 1 は、通信インターフェース 1 0 8 を介してやり取りされる通信コマンドの解析や、通信制御を行う。データ管理部 1 1 0 2 は、画像処理装置 1 0 0 で扱う各種データの管理を行う。プログラム管理部 1 1 0 3 は、データ管理部 1 1 0 2 が管理している常駐、あるいは非常駐のプログラムの実行を制御、管理する。ユーザ情報管理部 1 1 0 4 は、プログラム管理部 1 1 0 3 から問い合わせされるユーザ認証を行うための情報を管理している。

【 0 0 2 0 】

次に、このような画像処理装置 1 0 0 の動作について説明する。まず、システム管理者などの特定のユーザ（以下、特定ユーザと呼称する）は画像処理装置 1 0 0 を用いて、ジョブの種別毎に、ログイン中のユーザ以外の非ログインユーザの該種別のジョブに関する情報を表示する際にマスクして表示するか否か、を設定する。

【 0 0 2 1 】

このような設定のための G U I の表示例を図 2 に示す。例えば特定ユーザはハードキーやタッチパネル画面に表示されているボタンを操作して、自身のユーザ I D やパスワード（以下、認証情報）を入力して認証開始指示（ログイン指示）を入力する。C P U 1 0 1 はこの入力された認証情報を用いて認証処理を行い、認証（ログイン）に成功した場合には、図 2 の G U I をタッチパネル画面に表示させる。

【 0 0 2 2 】

領域 2 0 1 には、コピー、プリント、送信、受信、保存、の各項目について、該項目に対応するジョブに関する情報を表示する際に、該ジョブが非ログインユーザのものであった場合に該情報をマスクして表示するか否かを設定するためのボタンが表示されている。

【 0 0 2 3 】

項目「コピー」に対応する「許可」ボタン 2 0 1 a 及び「禁止」ボタン 2 0 1 b については、ユーザはタッチパネル画面上で何れか一方のみ選択する（タッチする）ことができる。ユーザがタッチパネル画面上で「許可」ボタン 2 0 1 a を選択した場合、非ログインユーザの「コピー」ジョブ（スキャナ装置 1 0 4 及び印刷装置 1 0 6 にコピーを要求するジョブ）に関する情報を表示する際にはマスクせずに表示するように設定する。一方、ユーザがタッチパネル画面上で「禁止」ボタン 2 0 1 b を選択した場合、非ログインユーザの「コピー」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定する。

【 0 0 2 4 】

項目「プリント」に対応する「許可」ボタン 2 0 1 c 及び「禁止」ボタン 2 0 1 d については、ユーザはタッチパネル画面上で何れか一方のみ選択する（タッチする）ことができる。ユーザがタッチパネル画面上で「許可」ボタン 2 0 1 c を選択した場合、非ログインユーザの「プリント」ジョブ（印刷装置 1 0 6 に印刷を要求するジョブ）に関する情報を表示する際にはマスクせずに表示するように設定する。一方、ユーザがタッチパネル画

10

20

30

40

50

面上で「禁止」ボタン 201d を選択した場合、非ログインユーザの「プリント」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定する。

【0025】

項目「送信」に対応する「許可」ボタン 201e 及び「禁止」ボタン 201f については、ユーザはタッチパネル画面上で何れか一方のみ選択する（タッチする）ことができる。ユーザがタッチパネル画面上で「許可」ボタン 201e を選択した場合、非ログインユーザの「送信」ジョブ（FAX 送受信装置 105 や通信インターフェース 108 に送信を要求するジョブ）に関する情報を表示する際にはマスクせずに表示するように設定する。一方、ユーザがタッチパネル画面上で「禁止」ボタン 201f を選択した場合、非ログインユーザの「送信」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定する。

10

【0026】

項目「受信」に対応する「許可」ボタン 201g 及び「禁止」ボタン 201h については、ユーザはタッチパネル画面上で何れか一方のみ選択する（タッチする）ことができる。ユーザがタッチパネル画面上で「許可」ボタン 201g を選択した場合、非ログインユーザの「受信」ジョブ（FAX 送受信装置 105 や通信インターフェース 108 に受信を要求するジョブ）に関する情報を表示する際にはマスクせずに表示するように設定する。一方、ユーザがタッチパネル画面上で「禁止」ボタン 201h を選択した場合、非ログインユーザの「受信」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定する。

20

【0027】

項目「保存」に対応する「許可」ボタン 201i 及び「禁止」ボタン 201j については、ユーザはタッチパネル画面上で何れか一方のみ選択する（タッチする）ことができる。ユーザがタッチパネル画面上で「許可」ボタン 201i を選択した場合、非ログインユーザの「保存」ジョブ（CPU 101 にデータの保存を要求するジョブ）に関する情報を表示する際にはマスクせずに表示するように設定する。一方、ユーザがタッチパネル画面上で「禁止」ボタン 201j を選択した場合、非ログインユーザの「保存」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定する。

【0028】

図 2 では、非ログインユーザの「送信」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクせずに表示するように設定し、非ログインユーザの「送信」ジョブ以外の種別のジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定している状態を示している。

30

【0029】

領域 202 には、非ログインユーザのユーザ名をマスクして表示するか否かを設定するためのボタン 202a、202b が表示されている。「許可」ボタン 202a 及び「禁止」ボタン 202b については、ユーザはタッチパネル画面上で何れか一方のみ選択する（タッチする）ことができる。ユーザがタッチパネル画面上で「許可」ボタン 202a を選択した場合、非ログインユーザのユーザ名を表示する際にはマスクせずに表示するように設定する。一方、ユーザがタッチパネル画面上で「禁止」ボタン 202b を選択した場合、非ログインユーザのユーザ名を表示する際にはマスクして表示するように設定する。

40

【0030】

そしてユーザは、図 2 の GUI を用いて設定を行った後、操作パネル 107 を用いて設定完了を指示する操作を行うと、CPU 101 は図 2 の GUI を用いて設定した内容を示す情報を設定情報として補助記憶装置 103 に登録する。

【0031】

その後、あるユーザがハードキーやタッチパネル画面に表示されているボタンを操作して、自身の認証情報を入力して認証開始指示を入力し、CPU 101 がこの入力された認証情報を用いて認証処理を行い、認証が成功したとする。このとき、CPU 101 は、図 3 に例示する GUI をタッチパネル画面上に表示させる。

【0032】

50

本実施形態では、図3のGUIにおいて表示する「ジョブに関する情報」は、ジョブの投入時刻、ジョブ名、ジョブのオーナー名（ジョブに含まれているユーザ名（＝ユーザID））、ジョブの状況（処理中若しくは処理待ち）、待ち時間（処理待ちのジョブである場合）であるものとしているが、これに限るものではない。

【0033】

ボタン301は、「コピー」ジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。ボタン302は、「プリント」ジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。ボタン303は、「送信」ジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。ボタン304は、「受信」ジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。ボタン305は、「保存」ジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。すなわち、ボタン301～305は、リスト形式で情報を表示するジョブの種別を指定するためのボタンである。

10

【0034】

ボタン306は、ボタン301～305のうち選択されているボタンに対応する種別のジョブのうち、処理中のジョブ及び処理待ちのジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。

【0035】

ボタン307は、ボタン301～305のうち選択されているボタンに対応する種別のジョブのうち、処理済みのジョブに関する情報をリスト309として表示させることを指示するためのボタンである。

20

【0036】

図3では、ボタン301～305のうちボタン302が選択されており、且つボタン306及び307のうちボタン306が選択されているので、処理中の「プリント」ジョブ及び処理待ちの「プリント」ジョブに関する情報を一覧表示することを指定している。

【0037】

ここで、図3のGUIは、図2のGUIで設定した設定情報に対応するもので、図2のGUIでは、非ログインユーザの「プリント」ジョブに関する情報を表示する際にはマスクして表示するように設定している。然るに、図3に示す如く、ログインユーザ、即ちユーザID＝A00001のユーザの「プリント」ジョブについては、ジョブに関する情報はマスクせずにそのまま表示する。一方、非ログインユーザ、即ちユーザID＝A00001以外のユーザIDを有するユーザの「プリント」ジョブについては、ジョブに関する情報（図3ではジョブ名）はマスクして表示する。図3では「マスクして表示」とは、元の文字列を「＊」からなる文字列で置き換えて表示することを意味しているが、他の表示方法を採用しても構わない。領域308には、ログインユーザがログイン時に入力したユーザIDが表示される。

30

【0038】

ボタン310は、リスト309中に表示されているジョブ群のうちユーザが指定したジョブの実行を一時停止させるためのボタンである。ボタン311は、リスト309中に表示されているジョブ群のうちユーザが指定したジョブの実行を中止させるためのボタンである。

40

【0039】

ここで、本実施形態では、マスク表示対象となったジョブ、すなわち、非ログインユーザのジョブに対する操作は禁止している。ここでいう操作とは、ジョブの実行の中止や、ジョブの属性を変更することや、ジョブの詳細な情報を確認すること、などを意味する。例えばユーザID＝A00002に対応するジョブの処理中にユーザがリスト309中のこのジョブを選択した場合、ボタン310やボタン311は選択できないようにする（例えば網掛け表示して押下不可能にする）。ボタン312は図3のGUIを閉じるためのボタンである。

【0040】

50

次に、ユーザがボタン306を指定した状態で、画像処理装置100が行う処理について、図4のフローチャートを用いて説明する。図4は、ジョブの状況画面を表示する際の画像処理装置100の動作を説明するためのフローチャートである。なお、以下では説明を簡単にするために、ボタン202a及びボタン202bによる設定は考慮していない。

【0041】

なお、図4のフローチャートに従った処理をCPU101に実行させるためのコンピュータプログラムやデータは補助記憶装置103に保存されている。然るにCPU101は、このコンピュータプログラムやデータをメモリ102にロードし、該ロードしたコンピュータプログラムやデータを用いて処理を実行することで、図4のフローチャートに従った処理を実行することになる。

10

【0042】

ステップS401では、ボタン301～305のうち何れのボタンが選択されているのかを判断することで、選択されているボタンに対応するジョブの種別を特定する。図3の場合、ボタン302が選択されているので、ジョブの種別として「プリント」が指定されていることを特定する。

【0043】

ステップS402では、メモリ102や補助記憶装置103で管理されている、処理中若しくは処理待ちのジョブに関する情報のうち、ステップS401で特定した種別（以下、種別X）のジョブに関する情報のリストを取得する。図3の場合、処理中若しくは処理待ちのジョブのうち、「プリント」ジョブに関する情報のリストを取得する。

20

【0044】

ステップS402で取得するリストの一例を図5に示す。図5は、処理中若しくは処理待ちのジョブのうち「プリント」ジョブに関する情報のリストの一例である。ジョブID501はジョブに固有のID、時刻502はジョブの投入時刻、ジョブ名503はジョブの名称、ジョブオーナー名504はジョブのユーザ名（＝ユーザID）、状況505は処理中及び処理待ちの何れであるのかを示す情報である。待ち時間506は処理待ちのジョブの待ち時間である。

【0045】

なお、図5に示したものの以外に、次に示す情報も、ジョブに関する情報に含まれる。例えば、コピージョブの場合、印刷枚数、部数、ファイル名、出力に要する時間（出力時間）、待ち時間などである。他にも、部門ID、ファイル名などもジョブに関する情報に含まれる。

30

【0046】

プリントジョブの場合、展開ページ数、受信データサイズ、出力時間、待ち時間、印刷枚数などである。送信ジョブの場合、宛先名称、宛先、送信モード、送信ファイル名、送信ページ数などである。

【0047】

受信ジョブの場合、相手先アドレス、受信時刻、受付番号、通信モード、受信したデータを転送する場合にはその転送先、受信ページ数等である。保存ジョブの場合、保存先、保存ファイル名、保存ページ数、等である。

40

【0048】

ステップS403では、図2のGUIでジョブの種別毎に設定した設定内容のうち、種別Xに対応する設定内容を取得する。図3の場合、「プリント」ジョブについて図2のGUIで設定した設定内容を取得する。

【0049】

ステップS404では、ステップS403で取得した設定内容が「許可」（マスク表示しない：制限しない）であるのか、それとも「禁止」（マスク表示する：制限する）であるのかを判断する。この判断の結果、「許可」である場合には、処理はステップS405に進み、「禁止」である場合には、処理はステップS406に進む。図2、3の場合、「プリント」ジョブについては「非ログインユーザの「プリント」ジョブに関する情報はマ

50

スク表示する」と設定されているので、この場合は、処理はステップS 4 0 6に進むことになる。

【0050】

ステップS 4 0 5では、ステップS 4 0 2で取得したリストに登録されているそれぞれの情報を、マスクすることなくタッチパネル画面上に表示させる。

【0051】

一方、ステップS 4 0 6では、ステップS 4 0 2で取得したリストから、ログインユーザのユーザIDを検索する。この検索の結果、ログインユーザのユーザIDが見つかった場合には、処理はステップS 4 1 0に進み、見つからなかった場合には、処理はステップS 4 0 9に進む。

10

【0052】

ステップS 4 0 9では、リスト内には、ログインユーザの種別Xのジョブに関する情報は含まれていない（非ログインユーザの種別Xのジョブのみ）と判断する。そして、ステップS 4 0 2で取得したリストに登録されているそれぞれの情報をタッチパネル画面上に表示させるのであるが、一部の情報（図3では「ジョブ名」）はマスクして表示させる。

【0053】

ステップS 4 1 0では、ステップS 4 0 2で取得したリストに登録されているそれぞれのジョブに関する情報から、1つ目のジョブに関する情報を読み出す。図5の場合、ジョブID = 0 0 0 1に対応するジョブの情報を読み出すことになる。

【0054】

20

ステップS 4 1 1では、ステップS 4 1 0で読み出した情報中のユーザIDが、ログインユーザのユーザIDと一致するか否かを判断する。この判断の結果、一致する場合には、処理はステップS 4 1 2に進み、一致しない場合には、処理はステップS 4 1 3に進む。

【0055】

ステップS 4 1 2では、ステップS 4 1 0で読み出した情報は、ログインユーザの種別Xのジョブに関する情報であるため、該情報をマスクすることなくタッチパネル画面上に表示させる。

【0056】

一方、ステップS 4 1 3では、ステップS 4 1 0で読み出した情報は、非ログインユーザの種別Xに関する情報であるため、該情報をタッチパネル画面上に表示させるのであるが、一部の情報（図3では「ジョブ名」）はマスクして表示させる。

30

【0057】

図3の場合、ログインユーザのユーザIDはA 0 0 0 0 1であるため、ジョブオーナー名 = A 0 0 0 0 1に対応するジョブの情報はどれもマスクされることなく表示される。一方、A 0 0 0 0 1以外のジョブオーナー名に対応するジョブの情報については、時刻、ジョブオーナー名、ジョブの状況、待ち時間の情報はマスクせずに表示され、ジョブ名についてはマスクされて表示される。

【0058】

ステップS 4 1 5では、ステップS 4 0 2で取得したリスト中の全てのジョブに関する情報を読み出したか否かを判断する。この判断の結果、全てのジョブに関する情報を読み出した場合には、図4のフローチャートに従った処理は終了し、未だ読み出していないジョブの情報が残っている場合には、処理はステップS 4 1 4に進む。

40

【0059】

ステップS 4 1 4では、ステップS 4 0 2で取得したリストから、未だ読み出していないジョブの情報を読み出し、処理はステップS 4 1 1に移行する。図5の場合、ジョブID = 0 0 0 1 ~ 0 0 0 5の各ジョブについて上記処理を行うことで、図3に示す如く、ジョブオーナー名 = A 0 0 0 0 1に対応するジョブの情報はどれもマスクされることなく表示される。また、A 0 0 0 0 1以外のジョブオーナー名に対応するジョブ（非ログインユーザのジョブ）の情報のうちジョブ名についてはマスクされて表示されている。

50

【 0 0 6 0 】

なお、図 4 のフローチャートに従った処理の後、ステップ S 4 0 9 及びステップ S 4 1 3 にてマスク表示対象となったジョブ（対象ジョブ）についてはその識別情報（ジョブ ID など）を補助記憶装置 1 0 3 に記録するなどして、該対象ジョブを特定するための情報を補助記憶装置 1 0 3 に記録する。そしてその後、ユーザがリスト 3 0 9 中で選択したジョブが、この識別情報に対応するジョブ等、対象ジョブに該当する場合には、ボタン 3 1 0 やボタン 3 1 1 は選択できないようにする（例えば網掛け表示して押下不可能にする）。

【 0 0 6 1 】

次に、ユーザがボタン 3 0 7 を指定した状態で、画像処理装置 1 0 0 が行う処理について、図 6 のフローチャートを用いて説明する。図 6 は、ジョブ履歴を表示する際の画像処理装置 1 0 0 の動作を説明するためのフローチャートである。なお、図 6 のフローチャートに従った処理を C P U 1 0 1 に実行させるためのコンピュータプログラムやデータは補助記憶装置 1 0 3 に保存されている。然るに C P U 1 0 1 は、このコンピュータプログラムやデータをメモリ 1 0 2 にロードし、該ロードしたコンピュータプログラムやデータを用いて処理を実行することで、図 6 のフローチャートに従った処理を実行することになる。

10

【 0 0 6 2 】

ステップ S 8 0 1 では、上記のステップ S 4 0 1 と同様にして、ボタン 3 0 1 ~ 3 0 5 のうち何れのボタンが選択されているのかを判断することで、選択されているボタンに対応するジョブの種別を特定する。

20

【 0 0 6 3 】

ステップ S 8 0 2 では、上記のステップ S 4 0 2 と同様にして、メモリ 1 0 2 や補助記憶装置 1 0 3 に格納されている、処理済みのジョブに関する情報のうち、ステップ S 8 0 1 で特定した種別（以下、種別 Y ）のジョブに関する情報のリストを取得する。

【 0 0 6 4 】

処理済みのジョブに関する情報とは、例えば、次に示す情報が含まれる。例えば、コピージョブの場合、印刷日時、印刷枚数、部数、印刷結果、原稿ページ数、出力ページ数などである。プリントジョブの場合、印刷日時、印刷枚数、ファイル名、印刷結果、などである。送信ジョブの場合、送信日時、宛先、送信結果、送信ファイル名、送信ページ数、送信データサイズ、通信モード、などである。受信ジョブの場合、受信日時、相手先、受信結果、受信ページ数、転送先（受信データを転送する場合）、などである。保存ジョブの場合、保存日時、保存先フォルダ、保存ファイル名、保存結果、保存ページ数、保存データサイズなどである。

30

【 0 0 6 5 】

ステップ S 8 0 3 では、上記のステップ S 4 0 3 と同様にして、図 2 の G U I でジョブの種別毎に設定した設定内容のうち、種別 Y に対応する設定内容を取得する。ステップ S 8 0 4 では、ステップ S 8 0 3 で取得した設定内容が「許可」（マスク表示しない）であるのか、それとも「禁止」（マスク表示する）であるのかを判断する。この判断の結果、「許可」である場合には、処理はステップ S 8 0 5 に進み、「禁止」である場合には、処理はステップ S 8 0 6 に進む。ステップ S 8 0 5 では、ステップ S 8 0 2 で取得したリストに登録されているそれぞれの情報を、マスクすることなくタッチパネル画面上に表示させる。

40

【 0 0 6 6 】

一方、ステップ S 8 0 6 では、ステップ S 8 0 2 で取得したリストに登録されているそれぞれのジョブに関する情報から、1 つ目のジョブに関する情報を読み出す。そしてステップ S 8 0 7 では、ステップ S 8 0 6 で読み出した情報中のユーザ ID が、ログインユーザのユーザ ID と一致するか否かを判断する。この判断の結果、一致する場合には、処理はステップ S 8 0 8 に進み、一致しない場合には、処理はステップ S 8 0 9 に進む。

【 0 0 6 7 】

50

ステップS 8 0 8では、ステップS 8 0 6で読み出した情報は、ログインユーザの種別Yのジョブに関する情報であるため、該情報をマスクすることなくタッチパネル画面上に表示させる。

【 0 0 6 8 】

一方、ステップS 8 0 9では、ステップS 8 0 2で取得したリスト中の全てのジョブに関する情報を読み出したか否かを判断する。この判断の結果、全てのジョブに関する情報を読み出した場合には、図6のフローチャートに従った処理は終了し、未だ読み出していないジョブの情報が残っている場合には、処理はステップS 8 1 0に進む。ステップS 8 1 0では、ステップS 8 0 2で取得したリストから、未だ読み出していないジョブの情報を読み出し、処理はステップS 8 0 7に移行する。

10

【 0 0 6 9 】

このような処理の結果、図7に例示するG U Iがタッチパネル画面上に表示されることになる。図7に示す如く、ステップS 8 0 5若しくはステップS 8 0 8において表示対象となった情報がリスト9 0 1として表示されている。また、ボタン9 0 2は、リスト9 0 1を含む適当なフォーマットの画面を印刷装置1 0 6に印刷させることを指示するためのボタンである。

【 0 0 7 0 】

本実施形態では、マスク対象候補をジョブ名としている。しかし、一覧表示する情報によっては、これに代えて若しくはこれに加えて他の情報をマスク対象候補としても構わない。

20

【 0 0 7 1 】

[第2の実施形態]

第1の実施形態では、ボタン3 0 6が選択された場合に図4のフローチャートに従った処理を実行し、ボタン3 0 7が選択された場合に図6のフローチャートに従った処理を実行するものとして説明した。しかし、図4、6のフローチャートに従った処理（若しくはその変形例）の実行タイミングはこれに限るものではない。

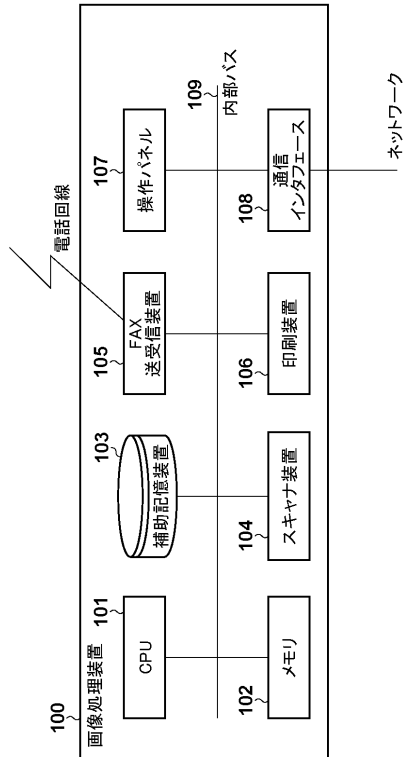
【 0 0 7 2 】

（その他の実施例）

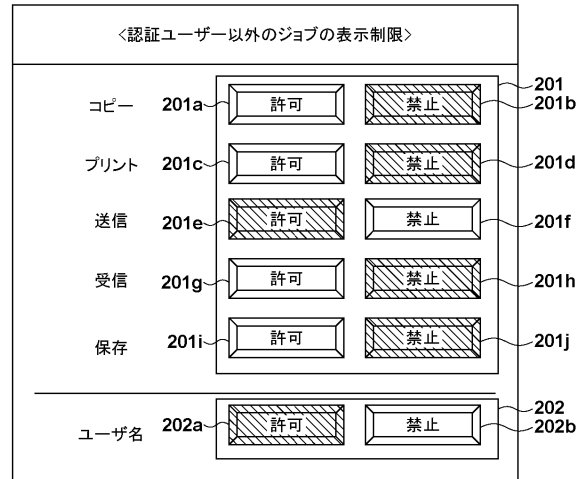
また、本発明は、以下の処理を実行することによっても実現される。即ち、上述した実施形態の機能を実現するソフトウェア（プログラム）を、ネットワーク又は各種記憶媒体を介してシステム或いは装置に供給し、そのシステム或いは装置のコンピュータ（またはC P UやM P U等）がプログラムを読み出して実行する処理である。

30

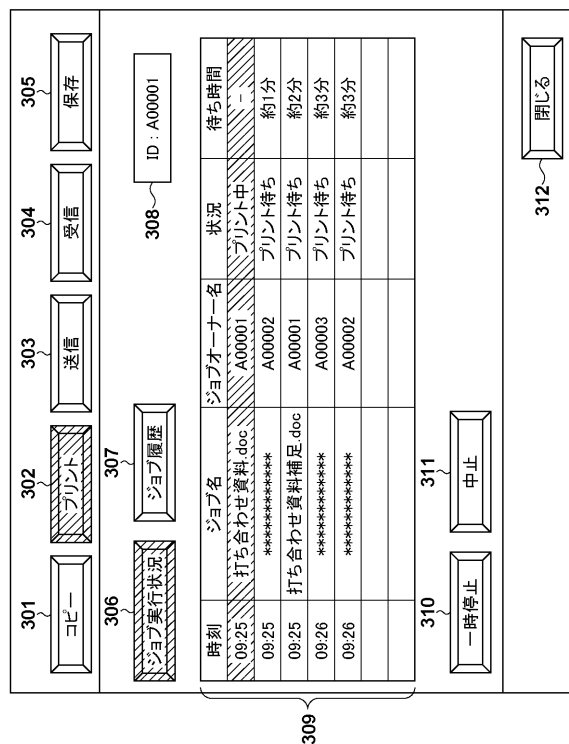
【 図 1 】



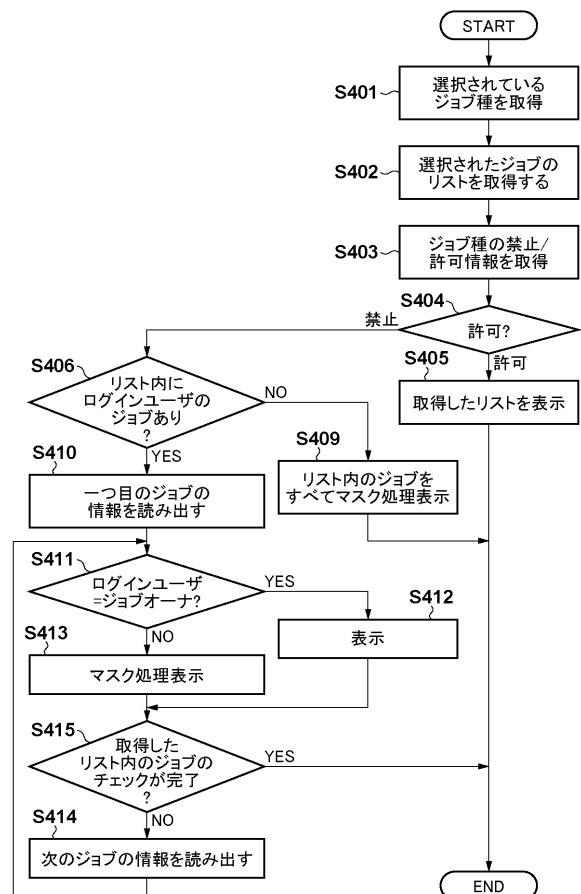
【 図 2 】



【 図 3 】



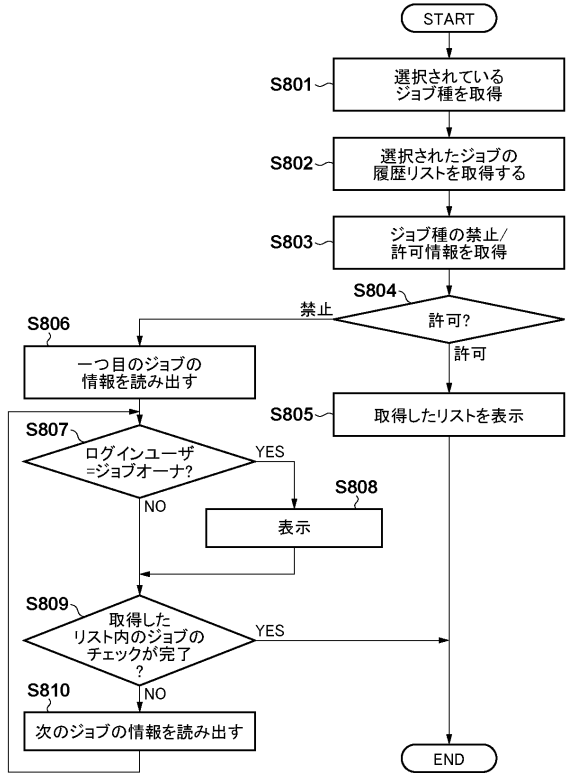
【 図 4 】



【図 5】

501	502	503	504	505	506
ジョブID	時刻	ジョブ名	ジョブオーナー名	状況	待ち時間
0001	09:25	打ち合わせ資料.doc	A00001	プリント中	-
0002	09:25	提出資料.xls	A00002	プリント待ち	約1分
0003	09:25	打ち合わせ補足資料.xls	A00001	プリント待ち	約2分
0004	09:26	補足資料.xls	A00003	プリント待ち	約3分
0005	09:26	補足資料.xls	A00002	プリント待ち	約3分

【図 6】



【図 7】

コピー

ジョブ実行状況

送信

受信

保存

ID: A00001

ジョブ履歴

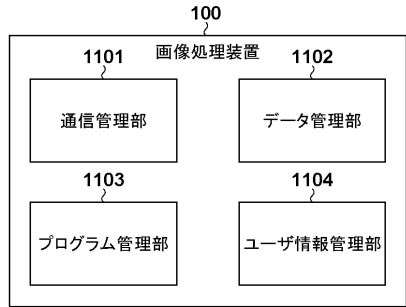
ジョブID	時刻	ジョブ名	ジョブオーナー名
0001	09:26	打ち合わせ資料.doc	A00001
0003	09:27	打ち合わせ補足資料.xls	A00001

リストプリント

902

閉じる

【図 8】



フロントページの続き

(72)発明者 西山 香里
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

審査官 牧島 元

(56)参考文献 特開2004-202846(JP,A)
特開2010-020639(JP,A)
特開2004-304291(JP,A)
特開2007-087002(JP,A)
特開2005-339508(JP,A)
米国特許出願公開第2006/0244998(US,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B41J 29/38
B41J 29/00
B41J 29/42
G06F 21/31
H04N 1/00